



資料：京都新聞

「上(北)下(南)順番は残っている様に思う。下(南)に住む私のヒガミだろうか。

さて、その七条近辺は、この9月「国立博物館新館(平成知新館)」が完成し旧館の重要文化財指定の特別展示館(明治古都館)と共に展示イベントも増えるだろう。

更に七条京阪駅に近い「貞教小学校」跡地に京都美術工芸大学東山キャンパス設置の基本協定が門川



の2代目京都市舎(1974~1980)が出来、市電の効果も有り、駅周辺は開発が進み今やそんな人は居るまい。だが、公共施策は

煙囪(チミモウリョウ)に住むと言う人もいたと聞く。京都御所から遠く離れ所謂洛中の南端で開発が遅れたからだろう。写真来るこの話もある。

七条辺りの変化
京都で大作京都市長と大学側の新谷秀一氏で締結(2014.05.14)された。開設予定平成29年4月30人。ら下(シモ)は、魍魎又、塩小路橋(七条の南の橋)近くにある「崇仁小学校」跡地に市立芸術大学移転計画も発表され同時に文化音楽施設も出来るとの話もある。



サカタニ友の会ニュース

発行者 株式会社サカタニ
株集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・東山区七条三丁目
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメール info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です



先月号「どんつき」欄と重なるが、妙法院北(武田病院跡)に外資系最高級ホテル建設が進行中だ。隣接地に平重盛の邸宅「小松殿」庭園と伝えられる「積翠園(しゃくすいえん)」がある。ここは昭和29年(1954)の病院建築時、地域で「積翠園」の保存運動があり、青年時代

の筆者もそれに加わり「保存協定」が結ばれた。今回、当時の協定継続か否かを心配をした。が、学区の説明会では、現状のママの保存と聞かれる所で交通アクセスも良い。一安心。が、外資系で油断は出ない。以上の様に、この辺り帯は、大正の市電開通現七条大橋完成、昭和の京阪電車地下化に匹敵するほどの大事になるだろう。変化をするだろう。京の明治の人達に倣い、平成人平成の今、変化に対応して、地の心意気を示そう。！。



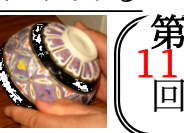
その上、2016年春開業を目指す梅小路に日本最大の「鉄道博物館」が出来。古くから有る東山の杜寺仏閣の観光資源にこれら加わる。

第112回 開催日:5月18日(定例第3日曜日)朝9時~
朝粥食べて・おしゃべり会
報告者:高木英智様

今回のお話は...
伊藤南山さま
朝粥の会は、講師の話からスタート。改装以後は【楽々ホール】が講演会場となり、講師とまっすぐ向き合うのが聴きやすくなりました。

今回のお話は「世界と京都の焼き物」と題して、京焼・清水焼の歴史の流を踏まえて、氏が歩んでこられた道のりを語られました。印象に残ったものは、「作家」になるのか、「職人」になるのか。つまり、ひとつのものを高く売るのか、たくさんを安く売るのか。時と場合に応じて、作家にもなり、職人になる必要があるとのことでした。次に伝統の技法だけでなく、新しい技法の追求を怠らないこと。オパールを切断して螺鈿のように見せたり、従来の、清水焼では使わなかったピン

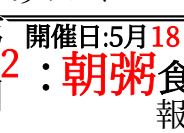
ク色の彩葉を探したり、伝統の上に革新を施されています。最後の、京都はいい土はないが、料理をはじめとする文化がある。それを支えている人たちがいる。それがいい。その原材料だとおっしゃいました。稲盛和夫さんからは京セラがあるのは京焼・清水焼のあるおかげだと言ってもらったこと。歴史と伝統のある京焼・清水焼。伊藤さんは海外での展開にも取り組まれ、今では、パリにハワイにと国際的な活動を広げられています。日曜の朝に、講師のお話を聴きおいしい朝粥をいただいで、



参加費10円！
直ぐに満席になるイベント、あなたも参加してませんか。
☆高木英智様
ご報告原稿有難うございました。



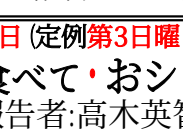
▼修学旅行で東京へ行った。道に迷い尋ねた。指をさして「あちら」とだけ教えられた。京だった、もつともつと、丁寧に教えるだろう。と江戸っ子は嫌いになつた。



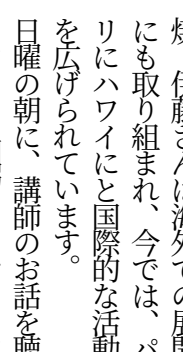
▼そのくせ、野球は東京巨人軍ファン。敗戦直後、プロ野球はタイガースが強く友人たちに多かった。それで巨人にした。少数派好みの「ベニ曲がり」男。



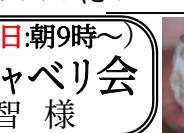
▼三叉路のTの縦と横が接点を「スキ」と言う。(私はそう思っている。)間違いかもしれないが。▼有難うございます。より「おき」に。「らっしやいませ」より「おいでやす」。さようなら「よりさいなら」が使いやすい、つい使う。



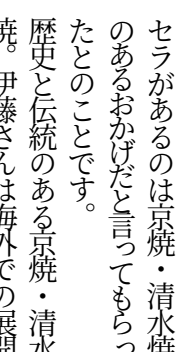
▼先日、柳原銀行へ行った。市電の写真が写って、河原町の線の写真に「どんつき」と大きな字で書いた靴屋に看板が写っていた。鉄道写真で有名な高橋宏さんの撮影ものだろう。



▼遠方の方も多い。どんつきで何ですか。と言われかねない。とんからりんはネット掲載もしているし、この際説明しよう。京都の人は許して「チョンマゲ」。



▼私、フイチスブックもしている。お友達も多い方だ。でも通常では「いね(読みました)」は20人程度。ところが今回の朝粥の会には200名だった。



どんつき



私の子供の頃は遊びに行く時に、祖母が、よそ(他人)さ

近は、幼児を除く全ての世代になつてきました。私の子供の頃は遊びに行く時に、祖母が、よそ(他人)さに立つ店であつたら店は神様

「店を引き立て友の会にご参加くださる方は、店の神様」

「明日への十日間」

「遺体」

逆に、深夜はやくざ風な方」さんとトラブルが再々起こりました。否、意識的に「難癖」を付けられるのです。大手メーカー製品だとその本社に矛先を向けます。話がこじれると、わが社に「助け」を求められ解決に、私がひと肌脱いだことも再三でした。永年この町に伊達に生きてません。押さえる方法は、先刻承知」で何時も一件落着でした。暴力関係諸法」出て来て最近皆無です。

「私にとってお客様は神様です」

「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

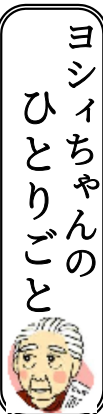
「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

「遺体」



「明日への十日間」

「遺体」

「遺体」

「遺体」

京都&東山 ぶらりピカリ

50

京都博物館と その付物館

京都博
物館は私共

の店の、ほん近くにある。私が子供時代は『恩賜(おんし)京都博物館との名前、館内は夜と定休日以外は「正門と裏門」は開いており、当時「本館」と呼ばれて、今は「明治古都館」に入場する外は無料でした。

私たちは少年は、邸内の北東に有った「四角池」でおたまじゃくしや「やご」トンボの幼虫。女の子は「れんげの花輪」つくりを楽しんだ。

邸内中央にある丸池は、夏は守衛さんの目を盗んで、プールとして泳ぎました。中学生のころは「本館前の庭」で三角ベースをして、守衛さんに叱られ追っぱらわれた。

「子供は風の子」から「かぎっ子」になった。春は庭内の桜。秋に紅葉も見事。数日でも開放出来ないものだろうか。博物館は七条通りの北側。その南側は「ハイアトリージエ



この写真は、何かお判りですか。博物館設立直後から、昭和30年代まで春夏をとり巻く形でみられました。文未回答☆

明治古都館
(めいじこどかん)

平成知新館
(へいせいしんかん)



ンシー 京都」がある。ここは「旧賀陽宮邸」だった。昭和20年10月米進駐連合軍の兵站病院として第一日赤が接収され「代替」で使われた。宮邸の面影は重厚な白壁が半分ほど残っている。一部は南海地震で壊れたと記憶している。

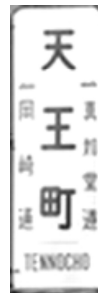
七条通りの「どんつき」にある智積院、ホテルの壁・博物館の「七条と東山」の三叉路の光景は、他のどの都市にもないと思っている。一度智積院の正門から七条通りを眺めてほしい。京都は良いところだ。

そう、博物館の南側、今は駐車場になっていて、小さな川が流れていた。今の南門から七条通りの南側を西へ。山と大路で暗渠になった。良い水の豊富有った「貞教学区」には酒蔵が五蔵あった町でも有った上は扇子の骨を乾かしているところ。扇づくりは分業です。野が深く、職人さんが大勢いらっしやった。☆扇の骨の干しの写真

市電が走った 京都を巡る

40

福田静二



真如堂
道を発
車した

白川線の市電は南下を続けます。右手から小さな川が寄り添ってき、白川通の下をくぐります。白川線とは何度も交差する白川です。金戒光明寺もある奥谷の山谷を車窓右手に望むこともできます。

静かな街並みを見ながら行くと、まもなく「天王町」の停留所に到着します。すべての市電は右方向へ直角に曲がって丸太町通に入ることになります。丸太町線は昭和五年の開通、白川線は昭和二十九年の開通です。つまり、二十四年の間、天王町が終点だった時代が



東山を間近に見ながら
天王町に到着する

あります。ほとんど家のない天王町終点に市電だけがポツンと停まっている古い写真を私も見た記憶があります。

ここから見ると、東山の山系がすぐ間近に迫ってきます。四季の移り変わりを手に取るように感じられますが、とくに、新緑鮮やかなこの季節は、市電から見る風景にいつその風情が感じられます。

この交差点の東南方向には、料亭「つる家」があります。明治四十二年に大阪で創業し、その後

昭和天皇の即位が行なわれた京都へ移転しました。私などは、もちろんなったこともない超高級料亭で、ちよつと近寄りたところですが、建物は正初期の別荘邸宅で、現在では、近代数寄屋建築に改築されています。庭園は、明治時代に名工の庭師により作庭され、東山の山並みと一体となった借景庭園とのことです。各国の元首などの賓客も数多く迎え、晩餐会が開かれています。私の印象に残るのは、イギリスのエリザベス女王が京都へ来られた際にも、つる家が利用されました。京都の街が沸き返ったことを覚えていてます。

昭和五十年、天王町にまだ市電が走っている時代でした。

さらに、東へ歩くと広い敷地が見えてきます。住友家が蒐集した美術品を展示する美術館、泉屋博物館です。泉屋とは、江戸時代の住友の屋号で、蒐集品で有名な



雪の日、丸太町通から
白川通へ曲がって行く市電

は、第十五代当主、住友春翠が明治・大正に蒐集した中国古銅器と鏡鑑です。常設展だけでなく、企画展も行なわれていますが、ここにも、手入れされた庭園があり、展示物だけでなく、庭園だけでも見る価値があります。

泉屋博物館の敷地は、先に紹介の住友春翠の邸宅を利用したものです。付近には、宗教団体の広い施設もあり、それらも、かつては別荘・邸宅だったのでしょうか。天王町周辺は、明治期以降、大きな別荘や邸宅が建てられ、現在の住宅地としての基盤が出来上がってきたと言えます。

現在、市バスの停留所名は東天王町となっています。確かに、現在の住所表示では、天王町は、少西の岡崎神社付近であり、停留所付近は東天王町となります。西へ向きを変えた市電は、丸太町通をまっすぐに進んでいきます。

酒屋で生きて 生かされて



第九十一話

耐え続け

チャンス待ち

ピンチヒットで「酒屋業」に参加したが、

酒屋・小売業24年・コンビニF社長の傘下に入ることは28年・何時の間にか60年も経った。そのうちの20年余は所得税がかからない給料で甘んじた。結婚し子共が二人出来、この収入では公立高校でも行かせられないと、32歳でタクシー運転手も覚悟して二種免許をとった。当時は住む家が職場、住み込み社員共に賄役を家内が担当、一部会社負担もあって何とかなっていた。傍目にすは、酒屋の管理職、裕福に見えていたようだが、結婚時費用も会社から借りた時代で有った。

父が債権者(仕入先)の出資、「不動産を抵当」に分割弁済で動き出した酒問屋(株)酒谷本店会社だったが、仕入先とのトラブルで二度目危機に直面。株主の朝日麦酒・協和発酵・江井ヶ島酒造の指示で舞鶴在の酒卸会社と同社京都出張所を統合。完全子会社になる。父は(現在地側)の酒小売(株)いづみ屋を残し専念、酒問屋「(株)酒谷本店」を過剰な債務付で父の持株全てを譲り経営から離れた。そして、

私は舞鶴の会社の子会社になった「新(株)酒谷本店」に常務で残った。常務になって報酬は増えたが赤字会社賞与無しで低所得時代がその後もズーと続いた。

酒屋業では、名高い舞鶴の

「軒を貸して母屋をとられる」危険はあった。仕入れ殆どが「本社」經由だから赤字・黒字はどうにでもなる。舞鶴の親会社は常に優良納税者で、

夜類

(よるのほほ)

月二天

類をなせる風を「夜風」と言うなら、「夜の類」は何だろうか？雲も有り、しかしながら、星月も見える夜の帳に、作者は首を傾けた。昔は見えた大銀河群の中を駆ける列車の汽笛を、夜の類とするのもいい。星流るるかわの向こう岸から聞こえる笛の音を、夜の類というのも悪くは無い。そして作者は関心の。美しくも切ない物語を。

ジャンリエッタ

レシオン、愛する君よ！私は貴方を追いました。しっかりと寄り添っていた筈よ。でもどうして離れてしまったのかしら？いくら探しても見当たらないわ。

一人の少女は月の船を漕ぎ、星をあちこち渡って探します。川の丁度真中辺りを下っていますと、美しくも物悲しい笛の音が聞こえてきました。

どうにでも出来る事。一応支援の形をとられたが、母屋Ⅱと現在地を「手に入れる」手段とも推測した。祖父母と父の二代で手にした土地を何としてでも守りきろうと内心で決意をした。

売上げ増で狭くなった卸会社の移転を薦め、上鳥羽に移転した。報酬は増えず、事業提案で空いている場所で「ラーメン屋」を提案したら「義郎はん、酒の問屋がそんな格

「なぜ、そんなに悲しそうなの？」音色を止めた男性が、すつと顔をあげます。

「愛する方が向こう岸にいるからです」

「なぜ川を渡らないの？」

「魔法によって、年に一度しか川を渡れないのです」

自らを投影しているかのような状況に心を痛めたジャンリエッタは、意を決して向こう岸へ向かいます。向こう岸では、花弁の様な衣装を幾重にもまとう女性が、何やら文を読んでいました。

「なぜ、文を読んでいるの？」

「向こう岸にいる君に、少しでも届くようにです」

ジャンリエッタへ向けたその顔は、同じくらしいの少女です。ジャンリエッタは少女の手を引っ張ると、自らの船に寄せました。

笛の音がハッキリと届きはじめて頃、少女は川に足をつけて岸へ駆け出しました。

好の悪いことは出来まへん」と言われた。これではなかなかと転職を考えた。

三年後、父が東京の会社で売っていた「いずみ屋」改め(京阪麦酒(株))が倒産。私には金が無く、妻が貯めた百万円を

持って東京へ行き、酒免許のある法人を手に入れることができた。その金と負債引受けヤット「酒小売」になれた。42歳まで耐え続け待っていたチャンスが向こうからきた。

「彦星さま！」

異変に気付いた男性も、笛を投げ出して走ってきます。

抱きしめ合う二人を微笑んで見ていると、二人の姿が薄くなっ

てゆきます。

「貴方のお陰で今年も逢えました、ありがとうございます」

彼等は幸せそうに川の中へ溶けてゆきました。

重く瞼が開きますと、そこは覚えのある空間。

「ああ、私は目を覚ましてしまったのね」窓の外を見上げるジャンリエッタの頬に、夜の光がこぼれました。

消しゴム ハンコ教室

◎月三天

毎週・水曜日・

1時〜4時



★月4回・1時間コース:月4千円
2時間コース:月4千円料850円
場所ギョリー集・初めての方も可
どうぞ火曜日デモ有り

編集後記

○この「とんからりん紙」は原則として、集西楽サカタ二友の会に

会費戴き人会された会員様に配布している。第1号は1995年(平)7年7月6日。19年前当時はまいどう!」の名前。2ヶ月に一度。

●当初は隔月発行で、友人の専門家に依頼していたが、途中で自分で作成した。PCの環境が良くなり、それなりの形はにできた。

○大学時代は出来れば新聞社に思ったが、中退して(さされ)別の人生になった。その中で「カリ切り」をして、新聞もつくった。

●その当時のペンだこが80才の今も残っている。そして、父の事業失敗の始末で酒屋商売を手伝った。その後5年程の「カリ版」生活とは離れ商売人になった。

○お陰で40kg満たない体重から70kg。今は常に60kg。古老は若い時の苦労は償ってでもせい!。」と言っていた。その通りだった。但し今までは。

●最高は400人近かったの。数年会員さんが260人様前後で増えない。支持されない何かがあると悩んで7月号にアンケートを入れます。協力をお願いします。

○今年はファミマ改装で会員証の切替作業と新会員様募集が仕切れなかった。お知り合いの方々をお誘いを。

●ファミマのバイトパートさんが不足です。手伝って頂戴!!